

市長の施政方針に対する代表質問

3月定例会では、市長が令和3年度施政方針に基づく各種事業を説明し、それに対し各会派の代表が質問を行いました。

※質問時間は、10分+会派人数×5分です。

地方創生実現に向けた取組内容は教育ICT環境の整備は

鴻創会(45分)

問地方創生実現に向けた取組内容は。

答令和元年度に策定した「第2期鴻巣市まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、新たに「関係人口」「Society5.0」「SDGs」の3つの視点を加え、本市の地方創生に向けた事業に取り組んできました。「賑わい創出交流拠点整備事業」では、日本薬科大学・女子栄養大学との連携に加え、官民連携パートナーとして選定した事業者との産官学連携により、食を通じて「健康意識の向上」と「地場産品のブランド化」を推進するほか、SNS等を活用した「情報発信の強化」と「関係人口の創出」といった総合戦略の目標を横断的に達成する施設の整備を進めています。

問教育ICT環境の整備について

て令和3年度の市内小・中学校における運用は。

答本市が目指す姿は「日常的に子ども達がICT機器を文房具のように使えるようになること」であり、全ては、鴻巣市で育つ子ども達のため」という想いをもって、学校教育情報化の推進に取り組んでいます。

学校教育情報化の推進は、学校教育の充実はもちろんのこと、不測の事態があった場合においての、子どもの健やかな学びの保障にもつながるものと考えています。

令和3年度からの本格稼働に向け、この間、各パイロット校においては、ICT機器の授業での効果的な活用について、教職員間で協議しながら、教育実践を積み重ねています。

パイロット校における実践から得られた様々な知見を、市内全校に伝達するとともに、ICT機器の効果的な活用等に向けての研修等を行うことで、市内全小・中学校での円滑

なICT環境の導入と新たな教育の実践を進めていきます。

○その他の質問

- ・ 新型コロナウイルス感染症への対応（令和2年度に実施した新型コロナウイルス対応の総括と今後予定している対応）
- ・ 令和3年度重点事業の進捗状況と今後の方向性
- ・ コウノトリの里づくり事業
- ・ 道の駅整備事業
- ・ 産業団地の推進
- ・ 令和3年度の財政状況の見通し
- ・ 市長公約事業
- ・ 持続可能な都市の実現

鴻巣市の新型コロナウイルス支援策令和3年度以降の財源確保の方策
こつこのす自民(30分)

問引き続き生活困窮者への手厚い対応と事業者へ支援策が必要と考えるが、新年度の新型コロナウイルスへの取組を伺う。

答新年度は、市独自支援策である第1弾から第6弾まで取組の効果を検証するほか「まちづくり市民アンケート」において市民ニーズを把握し、対策や支援を検討します。また、中小企業等振興条例制定に向け、商工業関係者の意見を聴取しつつ、今後の国や県が実施する補助金等の動向を注視し、切れ目のない支援を実施します。

問新年度より、児童・生徒一人一台学習用端末が整備されるが、その活用とともに学力向上の取組を伺う。

答学習用端末の整備により、学校内及び学校外での新たな形態でのコミュニケーションが可能となります。児童・生徒が日常的にICT機器を活用する、新たな教育活動へのチャレンジを働きかけます。本市の子どもたちの学力向上のため、身に付けさせたい資質・能力の育成を第一に考え、これまでの実践とICTとを最適に組み合わせ、教育の質の向上につなげます。

問こつこのす自民は、国・県・市の議員連携により、鴻巣市に最大のメリットをもたらす活動を継続していく。そこで、合併特例債終了後の財源確保をどう考えているか伺う。

答令和3年度以降の重点事業に対する財源確保は、今後も厳しい状況が続くと考えられます。国・県の補助金や、交付税算入を見込める起債を有効に活用するなど、財源確保に全力で取り組み、本市の未来へ向けに必要な施策をしっかりと進めます。

コロナワクチン接種体制構築DX推進と活用拡大の取組
公明党(30分)

問市民が安心して受けられる新型コロナウイルスワクチン接種体制は。

答 コロナワクチンは超低温の保管等を含め個別接種と集団接種について鴻巣市医師会に協力を依頼し、準備検討を重ねています。詳細が決まり次第、個別通知・広報・市ホームページ等で周知します。

問 新型コロナウイルス対応地方創生臨時交付金の活用は。

答 交付金の本市への配分は国庫地方負担分を合わせ18億円を超えます。プレミアム付商品券、電子図書館、デジタル技術による書かない窓館、デジタル技術による書かない窓館、デジタル技術による書かない窓館、デジタル技術による書かない窓館、令和3年4月2日以降に産まれた赤ちゃんに3万円支給等、市民生活・地域経済の支援策事業を立案展開していきま

問 DX(デジタルトランスフォーメーション)をどのように進めるか。

答 デジタル技術やデータの活用により、市民の利便性・業務効率化・職員の意識変革を図り「書かない窓」等、市民サービスの向上を推進します。ITツールに不慣れな人にも便利な市役所を目指します。

問 「花と緑の都市宣言」を踏まえた「花いっぱい事業」をどのように進めるか。

答 花いっぱいのもちづくり事業では、鴻巣駅から免許センターまで花で飾り、「花のある暮らし応援事業」では、転入・新婚世帯に花を

贈り、「幼保施設花いっぱい事業」では、子どもたちに花と触れ合う機会を創出し、本市の特色と強みを生かした魅力ある花いっぱいのもちづくりをさらに推進します。

「クワノトリの里づくり」事業は チームコスモス(25分)

問 「人にも生きものにもやさしいクワノトリの里 ころのす」とは、市において何を目指しているのか。

答 本市は「鴻巣市クワノトリの里づくり基本計画」を策定し、「人にも生きものにもやさしいクワノトリの里 ころのす」を指す将来像として掲げ、その実現に向け「自然と共生する環境づくり」「にぎわいのある元氣なまちづくり」「笑顔が輝く担い手づくり」を3つの基本方針として、関連する取組を進めてきました。令和2年度に飼育施設の建設に着手し、今年秋にはクワノトリのつがいを受け入れ、近い将来の放鳥に向けた、飼育・繁殖に取り組む運びとなっています。特別天然記念物であるクワノトリを市民に身近で見てもらい、自然環境を保全・再生する取組への理解を深められるものと思

ます。2年度から取り組む「ころのす」とりパートナー事業は、市民や市民団体、農業や商工業を営んでいる

人々や企業等、様々な主体が「パートナー」として当事業に参加してもらうことを想定し、立ち上げた事業です。3年度は「ころのとりブランド」を確立するために、ブランドマークとキャッチコピーを作成したいと考えています。

市民の声を生かした新「ごみ処理施設、不要不急な事業の見直し」は 日本共産党(20分)

問 白紙になった候補地(安養寺・郷地)に固執することなく、全市民を対象とした説明会・意見交換会を開催し、市民の合意と納得のもと、ごみ処理事業を進めることは。

答 3市での広域化が白紙になった以降も候補地としています。新たな枠組が決定し、事業計画が明確となり次第、市民へ説明・公表していきます。

問 コロナ禍で、自粛生活が長引く中、不要不急な事業は見直し、市民の命や暮らし優先の予算にすることを求める。クワノトリの里づくり事業、道の駅整備事業を見直すことは。

答 人にも生きものにもやさしい安全安心で住みやすい環境をつくり、クワノトリをシンボルとした地域の魅力を発信するクワノトリの里づくり事業や、産業振興や防災、情報発信などの役割を担う道の駅整備事業

は、地方創生を推し進める事業であるため、計画に沿って実施していきます。

脱炭素社会への取組

かいいんたい(20分)

問 「2050年二酸化炭素排出実質ゼロ宣言」をすべしと考えるが。

答 環境省は「2050年に温室効果ガスの排出量又は二酸化炭素を実質ゼロにすることを指す旨を、首長自ら又は地方自治体として公表された地方自治体」をゼロカーボンシティと定義しています。本市では「地球温暖化対策先導事業」として、主に5つの取組により公共施設からの二酸化炭素排出量を削減し、使用するエネルギーの合理化を推進していきます。二酸化炭素排出量実質ゼロの実現に向けた取組を推進していくためには、市が総合的な施策を展開することはもちろんですが、事業者や市民等と、それぞれの主体が連携・協働して取り組んでいくことが必要です。そこで「E」な住環境づくり事業」として、市民が主体となっていく環境負荷の少ない住環境づくりへの4つの取組を支援しています。この2つの事業を両輪として、今後は「ゼロカーボンシティ宣言」に向け検討を始めます。